



Higashi

東区

P085-P105

新潟市民
文化遺産
ガイドブック

招魂所山 六體地蔵尊

東区石山5-10-9

東
区

享保5年(1720)に新田開発に携わった酒井吉右工門は門前で倒れた旅の六部(諸国を巡り門付けして歩く行脚僧)を看護しました。そのお礼に万病に効く五香(漢方薬)の処方箋をいただき、調合して売り歩いたところ、効き目が評判となり、酒井家の家運は富に栄えたといえます。

吉右工門は、六部のお陰だといって報恩のため六體地蔵尊を建立、御堂を建てて祀りました。

その後、北越鉄道敷設に伴い、明治30年(1897)頃、招魂所山に移転し、今では地域でお正月と、4月24日(地蔵祭)には、お地蔵さんに新しい頭巾と涎掛け・衣を着せて、お祭りをしています。

また、日々参詣する人も多く、地域の守り神としての信仰心も高いです。

六體地蔵尊の中央にある石塔に「念佛供養塔」享保五庚子と刻まれています。



いしやますわじんじゃ

石山諏訪神社

東区石山2-1-2

東
区

新発田藩による石山新田開発時に、開拓の神である「建御名方命」を開発の安全と春の豊作祈願、秋の収穫祈願のつつがない進行祈願のため、村人の産土神として文禄年間(1593~96)に創建されました(※注)。

天明4年(1784)に再建され、慶応2年(1866)焼失、翌年再建、明治29年(1896)、北越鉄道敷設の際現在地に遷座しました。

門前には新潟市で一番古い狛犬が鎮座しており、台座には、安政3(1856)丙辰年4月建之と刻まれています。

毎年8月30日には、奉納盆踊りが執り行なわれ、30店余りの露店も出て、多くの躍子と参拝者で賑わっています。

400年の歴史を刻んだ村社「石山諏訪神社」は地域の守り神として大切にされ、毎月住民が境内を掃除し、保存に努めています。(※注…郡誌によれば、寛永年間(1624~44)当大字開発の際創立とあります。)



しょうちゅうひ

昭忠碑

東区石山2-1-2(石山諏訪神社境内)

東
区

明治43年(1910)、予備役・後備役軍人の軍人精神向上、傷痍軍人・軍人遺族の救護等を目的に伏見宮貞愛親王を総裁とし、帝国在郷軍人会が発足しました。

当時の陸軍省に本部が置かれ、各市町村に分会が設置されて、石山村にも石山分会が存在しました。

昭和2年(1927)、帝国在郷軍人会石山分会は、日清・日露戦争の戦死者の英霊を祀るため、石山諏訪神社境内に『昭忠碑』を建立し、毎年、4月30日に慰霊祭をおこなっていました。

なお、揮毫は、青森県出身の大日本帝国陸軍大将で、後に帝国在郷軍人会長の公職に就いた「一戸兵衛」(大正15年(1926)～昭和6年(1931))です。



推薦団体 石山連合自治会

石山排水機創設先覚者表彰碑

東区石山2-1-2(石山諏訪神社境内)

葦沼と呼ばれた亀田郷は、海拔0mの低湿地帯であり、大雨が続くと、信濃川や阿賀野川が氾濫し、洪水に襲われるなど、水との戦いに明け暮れていたと言っても過言ではありません。

亀田郷の排水は、栗の木川に依存していましたが、排水機能は充分ではなく、堤防決壊などの被害が発生しました。

明治38年(1905)、栗の木川の排水機能を高めるため、石山排水機水利組合を設立して、翌年6月に東山(東明7丁目附近)に排水機を設置しました。

この排水機は、蒸気動力ポンプで排水する亀田郷排水設備としては初めての機械でしたが、時代の流れとともに、より大きな排水機場が設置され、その役目も終わり、昭和11年(1936)に初めての蒸気動力ポンプ設置を称えて建立されました。

今では、地域の人達が掃除をして守ってくれています。



やくしあん
薬師庵

東区松崎1-14-27

東
区

東区で唯一の県指定文化財の薬師如来坐像のほか、朱塗りの仁王門や古い石塔、石仏などが点在し、地元では「松崎のお薬師様」として親しまれています。

<薬師如来坐像のご開帳>

春:5月7・8日 秋:11月7・8日



推薦団体 大形地区コミュニティ協議会

ふじとじんじゃ

藤戸神社

東区松崎1-14

東
区

薬師庵に隣接しており、鎌倉時代は源頼朝の命により鳥坂城(現、胎内市中条地内)を討伐した佐々木盛綱が凱旋途中に戦勝を祝して社を築いたと言われています。

また、この神社には、源義経一行にまつわる伝説もあります。義経一行は、松崎の辺りで村の娘に道を尋ねます。娘は彼らが鎌倉から触れが回っている義経一行であることに気づき、そのことをうっかりもらしてしまいます。それを聞いた弁慶は「素性を知られた以上は致し方ない」とその娘を切り捨ててしまいました。弁慶に切られた娘を哀れに思った村人たちが、その霊を祀ったのが藤戸神社であると言われています。

春祭礼:4月14日、15日

秋祭礼:9月14日、15日

しめ縄作り:8月下旬の日曜日



つしまやじんじやのおおけやき

津島屋神社の大けやき

東区津島屋1-99

東
区

諏訪神社の境内にあるけやきは、新潟市の保存樹木に指定されています。大きなけやきは海上からすぐに目につくことから、航路の目印としての役割を担っていました。

春 宵宮:4月26日 祭礼:4月27日

夏 宵宮:8月26日 祭礼:8月27日



推薦団体 大形地区コミュニティ協議会

津島屋閘門排水機場

東区津島屋5

東
区

軟弱な地盤に加え、海拔がほぼ0mである通船川・栗ノ木川流域は、新潟地震の際、あちこちで川の堤防が壊れ大きな被害を受けました。津島屋閘門排水機場は、新潟地震後の昭和43年(1968)に地域を水害から守るために山の下閘門排水機場とともに建設され、現在も山の下閘門排水機場で一元管理されている施設です。

同施設の役割は3つあります。1つ目は、水をポンプの力で阿賀野川に排水し、豪雨の時にも通船川・栗ノ木川流域に水があふれないようにすること。2つ目は、約2m差がある水門を閘門内で調節する船のエレベーターの役割です。3つ目は、定期的に阿賀野川から水を取り入れて、通船川と栗ノ木川の水質が悪くなるのを防ぐことです。

このように、山の下閘門排水機場とともに同施設が機能することによって、地域の住民が安心して暮らすことができるのです。



照大寺 慧燈大師縁由地の碑

東区石山6-3-37

東
区

寛永6年(1629)、6世勝如が現在の石川県野々市町から当地へ移り、堂宇を建立したとされています。戦国時代、大阪の石山本願寺と織田信長が戦った際、当時加賀にあった同寺から石山本願寺へ兵糧を運び、その功を称えられました。現在地へ移転後、当時の苦勞をしのび、当地を石山と名付けたとも言われています。

また、門前には、慧燈大師(浄土真宗本願寺中興の祖蓮如上人)縁由地の碑が建っています。



平出修 生誕の地碑

東区猿ヶ馬場2-10-10

平出修は新潟を代表する作家の一人です。明治11年(1878)、石山猿ヶ馬場、児玉家の8男として出生。弁護士として明治43年(1910)の大逆事件に携わりました。弁護士業の傍ら小説家、歌人、評論家としても名を成しています。発禁となった「逆徒」や猿ヶ馬場の農民を書いた「夜烏」などを出版し、同人誌「明星」で石川啄木と共に活躍しましたが、大正3年(1914)、病気のため、若くして永眠。地域の有志により「平出修生誕の地碑」が建てられました。

平成26年(2014)には平出修没後100年を迎えました。



おおがたじんじゃ

大形神社

東区河渡本町19-25

東
区

延長5年(927)に造られた「延喜式」の神名帳に書かれている沼垂郡大形神社であると伝えられています。この神社の名が大形の地名の起源となるなど、地域形成において、大きな影響を与えました。

前庭には珍しい八重咲きの黄桜があります。一時代白山権現と称しましたが、およそ百余年前の額面また御神鏡にも大形神社とあり、昭和19年(1944)に今の社名に改め、その後県社に列せられました。御祭神の

御神徳は五穀豊穰、開運招福、縁結びの神として厚い信仰を寄せられ現在に至っています。



じゅんさいいけこうえん

じゅんさい池公園

東区松園2-2-1

全国でも珍しい砂丘湖を美しい赤松林が取り囲む自然あふれる公園です。面積は7.3haと市内でも有数の広さです。春は京都円山公園の流れを汲むしだれ桜がかがり火に照らされ幻想的な雰囲気となるほか、初夏はホタルが飛び交います。

東山の下地区コミュニティ協議会では「じゅんさいを守る会」を立ち上げるなど、住民としてより親しまれるよう取り組んでいます。



推薦団体 東山の下地区コミュニティ協議会

ぼたんやますわじんじゃ

牡丹山諏訪神社

東区牡丹山3-14-38

東
区

平成25年(2013)、円筒埴輪(はにわ)片が発見された牡丹山諏訪神社で平成26年(2014)9月1日から10日にかけて新潟大学人文学部の橋本博文教授らの調査団が発掘調査を実施。数多くの遺物の中から、5世紀前半の直径約30メートルの円墳があったことが分かりました。

新聞やテレビなどでも大きく報道され、調査の現地説明会では、世代を超えて多くの地域住民が参加するなど、地域の誇りづくりや一体感醸成に貢献しています。



推薦団体 牡丹山小学校区コミュニティ協議会

ぼしんのえき きねんのひ

戊辰の役 祈念の碑

東区はなみずき1丁目(はなみずきさくら公園)

近代日本の幕開けとなった明治維新、太夫浜に上陸した明治新政府軍と新潟を守備していた、列藩同盟軍と戦闘となりました。

明治新政府軍の進攻の通り道となった上木戸周辺で米沢藩士数名が討ち死にしたところ、人を大切にする人間愛から異郷の地で亡くなった藩士を手厚く埋葬しました。しかし政府軍が取り締まったため「官軍塚」「將軍塚」として守ってきました。

新しい記念碑を建立した際、米沢の人を招き除幕式を行いました。

先達が示した再びこの地を戦場としないという思いと勇気を称えた記念碑です。



ももやまのひ
桃山の碑

東区桃山町2-204 (桃山小学校敷地内)

昭和39年(1964)の新潟地震の時、教師が子どもたちを連れて避難しました。

子どもたちを守り抜いた教職員を讃えた記念碑で、区内外から大勢の方が見学に来られています。



推薦団体 桃山校区コミュニティ協議会

山の下閘門排水機場

東区沼垂6012-2

東
区

軟弱な地盤に加え、海拔がほぼ0mである通船川流域は、新潟地震の際、通船川の堤防が壊れ大きな被害を受けました。山の下閘門排水機場は新潟地震後地域を水害から守るために建設されました。年中無休で排水機を運転し、通船川の水位を0mより低く保っています(低水路方式)。また、観音開きの閘門は珍しいです。

水害時の安全確保など周辺住民の生活に密着している施設。また周辺企業の木材輸送などの風景としても親しまれています。



大形神社太々神楽

東区寺山3-28-10

東
区

神主を務める寺山家が約200年前から伝承する神事。

年に一度、秋の祭礼の時に御神殿の御扉を開き、神職が出雲流の十一舞を舞い、神様に奉納します。



石山節

東区石山地区

東
区

石山節は、水郷で使われた舟との因縁から出雲節(※注)として歌われてきました。しかし、都市化が進むにつれて、近年余り歌われる機会もなく、知っている人も少なくなっていました。

平成25年(2013)1月、猿ヶ馬場に住み、児童達の田植え体験などで協力していた大野欣一さんの自宅で偶然、東中野山小学校の地域ボランティアらが訪問した際に石山節の歌詞が書かれた額を見つけ、子どもたちにも知ってもらおうと話が進みました。これは、市の地域と学校ドリームプロジェクト支援事業の認定校の取り組みとしても取り上げられ、同年7月に同校で復活、披露されたものです。(※注…江戸時代に山陰地方の船乗り相手の女たちが唄った酒盛り唱。全国に広まり、多数の民謡の源流となりました。船方節とも呼ばれます。)



山の下木遣り

東区神明宮11-3

東
区

加賀より語り継がれた律動の詩が連歌となって取り入れられ、作業歌になったと言われます。

春と秋の神明宮の祭りに各鳥居毎に町内別の木遣りが奉納されます。



山の下まつり

東区臨港1-8-48

春秋大祭。毎年4月、9月の2回開催されます。地域の住民によるみこしや太鼓・山車でにぎやかなまつり行列、数多くの露店、山の下市場通りでの民謡流しなど地域に親しまれている盛大な祭りです。

山の下木遣り保存会など祭りを担う若手育成にも力を入れています。



